

A-53 各種ゲンゴンの血清ならびに組織コレステロール量におよぼす影響  
十文字短大 濃口恵子 大島たか子 林 寛

目的 Staubら (J. Nutrition, 95, 633, 1968) は食餌中のゲンゴンの種類により、血清コレステロール (Ch) 値に差異のあることを報告しているが、この点を確かめるため各種のゲンゴンを動物に与え、成長、血清、肝臓および副腎 Ch 量、肝臓脂質量などを測定し比較した。

方法 ウイスター系雄シロネズミ (体重約 80g) を 4 群 (1 群 7 匹) にわけ、トウモロコシゲンゴン (C)、バレイショゲンゴン (P)、サツマイモゲンゴン (S)、コムギゲンゴン (W) をおのおの唯一の糖質源とする食餌 (タンパク質はカゼイン 18%) を自由に与えて 14 日間飼育した。血清 Ch は Zak 法、組織 Ch は Sperry-Webb 法で定量した。肝臓のアルコール抽出、エーテル可溶部を脂質量とした。

結果 成長は W 群が最もよく、以下 C 群、S 群、P 群の順であり、W 群と S 群間および C 群と P 群間とに有意差 ( $P > 0.05$ ) が認められた。これは食餌効率にもみられる。C 群の肝臓と脾臓、P 群の副腎重量比は他の群より大きい。血清 Ch 量は P 群が他の群より低い値を示したが ( $P > 0.05$ )、他の群間には有意差はみられない。肝臓 Ch 量は P 群と C 群とが低く、W 群と S 群とが高い値を示し、S 群と P 群間、W 群と S 群間に有意差がみられた。また副腎 Ch 量は P 群が他の群より高く、以下 C 群、S 群、W 群の順であり、P 群と C 群間、S 群と W 群間に有意差がみられた ( $P > 0.05$ )。なお肝臓脂質量は W 群が最も高い値を示し、以下 S 群、P 群、C 群の順であり、各群間に有意差が認められた。